

令和 6 年 6 月 4 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13614

研究課題名（和文）「制度」を踏まえた価値醸成メカニズムの検証：エスノメソドロロジーの視座から

研究課題名（英文）Institutional value creation: From an ethnomethodological perspective

研究代表者

佐藤 那央 (Sato, Nao)

京都大学・経営管理研究部・特定講師

研究者番号：10850828

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はこれまでその重要性は指摘されてきたものの、経験的な研究の乏しかった文化や規範、集合的意味などといった制度的側面を具体的な価値創出の実践を通して考察することで学術、実務的貢献を試みた。具体的には、確立されたバー文化の伝統を積極的に変革しようとする若手バーテンダーに焦点を当てることで、制度を参照しつつ新しい価値や意味を作り出す実践として「境界の架橋」、「規範の侵犯」、「領域の拡張」という特徴的なパターンを明らかにし、これまで既存の制度を規定していた枠組みを攪乱する戦略として記述した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が取り上げた「伝統」という一定の期間を通して構築された社会的な構造と、その革新に関する既存研究は、伝統を過去に関する何らかのモノや特徴に還元してしまう傾向にある。その結果、伝統の刷新は既存の要素と新しい要素の組み合わせなどによって説明されてきた。本研究は、伝統をそこに関わる人々の実践そのものとして捉えることで、その実践をずらし、これまでの伝統を規定するものを宙吊りにするという、これまでにない形での革新のあり方を示した。これは、実際に同様の問題を抱える老舗企業をはじめ、制度的な側面を踏襲しながらも革新を実現しようと試みる実務家にとっても示唆的であると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study examined how institutional aspects such as culture, norms, and collective meaning could be resources or constraints on value creation. By focusing on younger generation bartenders who are actively trying to change the established tradition of bar culture in Japan, I revealed the distinctive patterns of their practices: "spanning boundaries," "breaching norms," and "expanding domain," that enact new meanings and value while adhering to institutions. Based on these findings, this study proposes a radical approach to address the paradox: to suspend the existing foundation of tradition and create a space for innovation.

研究分野：組織論

キーワード：価値創出 制度変化 伝統と革新

### 1. 研究開始当初の背景

企業による一方的な価値創造のあり方から、顧客やその他のステークホルダーを巻き込んだ「価値共創」へと視座を転換させたサービス・ドミナント・ロジック等をはじめ、価値を個人の主観やモノに還元する本質主義的な捉え方は否定され、多様なアクターとその背景にある文化や規範、集合的意味などといった「制度」を考慮した価値創出のあり方が提唱されている。このようなアクターの主観的レベルを超越した制度的側面を価値創出の背景として考慮するアプローチは示唆的であるものの、抽象的な議論に止まっており、経験的な研究はほとんどなされていない (Pop et al., 2018)。結果として、実際に人々がどのように制度的構造を参照し、価値を導出していか、また、その際人々が既存の制度をどのように変化させていくかなど、核心に迫る具体的な知見は不足している。このような背景から、主体と構造の二元論を避けながら、両者の再帰的な関係を明らかにすることは、価値概念を扱う組織、マーケティング研究への貢献と、実務における新たな価値創出方法の手がかりとなることが見込まれる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、「制度と価値導出の実践はいかにして作用し合うか」という問いのもと、制度と価値導出の関係を経験的な検証を通して考察することにある。より具体的には、アクターの価値評価や提案に制度的側面が与える影響と、逆にそのような実践がどのように制度を更新していくかの解明である。この目的を達成することにより、社会的なシステムを基盤とした価値醸成メカニズムの一端を解き明かし、既存の価値研究を推し進めるとともに、実務における価値創造に資する知見の獲得を目指す。またその際、「制度」といった所謂マクロな構造を研究者が外からあらかじめ規定し、価値への影響を検証するような決定論的な結論に陥ることを避けるため、本研究はエスノメソドロロジーの視座を理論的枠組みとして援用する。人々(ethno-)が日常生活における活動を秩序立ったものにするそのやり方(method=方法)を記述し、解明する社会学の研究プログラムであるエスノメソドロロジーにとって、制度等のマクロな構造は、先験的に存在するのではなく、あくまでも実践の中で参照され、利用されるものとして扱われる。このような規範やルールを人々の実践の内側から記述するという分析の視点を価値研究に接合させることも本研究の一つの目的である。

### 3. 研究の方法

本研究は制度や価値といった比較的大きな概念に取り組む研究課題であるが、分析の対象を申請者がこれまでに実施してきた飲食業(バー)に絞ることで一つの事例として分析と考察を完了させる。具体的にはバー文化に関する言説の歴史の変遷と制度的側面を考慮したバーテンドーの実践に焦点を当てた検証を実施する。

#### バー文化の歴史の変遷

日本におけるバー文化における伝統や規範の語りがどのように構築され変化してきたかを読み解くために、バーに関する歴史的資料や関連する書籍、雑誌などの言説分析を実施する。歴史的資料に関しては、終戦直後から現代に至るまで発刊されている日本バーテンドー協会の機関誌を中心に分析を実施する。他にも大正、昭和初期のカクテルレシピ集や、カフェー、ピヤホールなどに関する文献や雑誌「洋酒天国」、バー経営やバーテンドーに関する書籍など幅広い資料を用いて、それらの歴史的資料の中でバー文化がどのように語られてきたかを分析することによってその制度的側面の構築と変遷を明らかにする。

## 価値創出における制度的側面の影響の実践の検証

バー文化の担い手であるバーテンダーに着目し、彼らが実践の中でいかに制度的側面を考慮し価値提案を実施しているかを、インタビューや実際のサービス提供場面の参与観察などを通して分析する。その際、制度的側面を再生産するだけではなく、時代に合わせてそれを刷新していくような実践についても分析を行う。また、顧客や評論家などサービスの受け手がどのようにそれを評価するかについても、インタビューや最新の雑誌記事の分析を通して明らかにする。

### 4. 研究成果

研究 に関しては、計画に則りデータを収集し分析と考察を進めた。戦後から 1970 年代にかけて、文化国家としての再興を目指す日本において、バー文化に期待された社会的価値や、現在オーセンティックバーと呼ばれる典型的なスタイルに繋がる、バーにおけるルールや態度が構築されていく様子を明らかにした。またそれ以降も経済的成長に伴って、街場を中心に様々な様式のバーが台頭していく中で、ホテルや老舗の有名店などで一定期間以上の修行を積み、研鑽を重ねたいわゆる正統的なバーテンダーが自らの実践を差別化していくことで、オーセンティックなスタイルが確立し、一つの伝統として制度化されていく様子が明らかになった。

一方で、近年では、このような確立された伝統的なスタイルの下でキャリアを形成しながらも、それを積極的に変革しようと試みる若手バーテンダーの存在が明らかになり、研究 においては、主にオーセンティックなスタイルとしての制度を再生産していくシニアバーテンダーに加えて、彼らの実践に焦点を当てていくこととした。そのような若手バーテンダーによる変革の実践は、接客や店内の雰囲気、商品（カクテルなど）の表現に至るまで、価値提供に関する様々な形でなされる。そのどれもがこれまでの文化を完全に否定するのではなく、従来の様式から要素を汲み出しつつも、大きな逸脱を表現することで新しい価値を提示する様子が明らかになった。以上の知見をもとに、「伝統」と「革新」に関する既存の議論に貢献する論文の執筆を開始した。

意識的に受け継がれてきた信念や実践としての「伝統」という制度化された環境下で、そこに関わる人々が、これまでの伝統の価値を大きく損なうことなく、どのように新しい価値を創り出すかを一つの事例を通して明らかにすることは、本研究課題の問いに対する一つの回答である。特に、既存の伝統が持つ特徴的な要素を故意に大きく読み替え、これまでの伝統を形成してきた基準をずらしていくことで、伝統を更新していく実践の記述は、伝統と革新に関する典型的なパラドックスの議論に新たな視点を提供した。これらの成果は Society for the Advancement of Socio-Economics の annual conference での口頭発表、Academy of management の paper development workshop などでも発表し、執筆した論文は Advances in Strategic Management の特集号「Tradition as Resource or Constraint for Strategic Action」に投稿した。該当の論文は条件付きで採択され、2024 年 12 月に出版が予定されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 佐藤那央	4. 巻 19(2)
2. 論文標題 サービス価値を問い直す-バーの相互行為分析から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 感性工学	6. 最初と最後の頁 74,78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Nao Sato
2. 発表標題 Multiplicities in profession: How Japanese bartenders negotiate for a national characteristic
3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics Annual Conference, Rio de Janeiro (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nao Sato
2. 発表標題 Convention and Deviation in the Making of Japanese Bar Culture
3. 学会等名 The 83rd Annual Meeting of Academy of Management in Paper Development Workshop, Boston (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nao Sato
2. 発表標題 Tradition as performative: Tradition and innovation in the making of Japanese bartending
3. 学会等名 Workshop on Tradition as Resource or Constraint for Strategic Action in the Digital Age, Matera, December, 16-17, 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------